1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　もくれん　　　　　）

事業所番号	0671300242		
法人名	医療法人社団　須田医院		
事業所名	須田医院グループホーム		
所在地	上山市美咲町1-2-18		
自己評価作成日	令和　3　年11　月　1　日	開設年月日	平成　14　年　11月　1　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・医療機関が併設されており、緊急時や御利用者の体調管理について、医師や看護師と連携が取れ、安心して　生活していただくことが出来る
・家事動作への参加を促し、個別にあわせて、、自立してやりがいのある生活を送る事が出来る
・ご希望に沿って、併設医院にてリハビリを受けることが出来る

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目３－１０		
訪問調査日	平成　3年　12月　17日	評価結果決定日	平成　4年　1月　7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫

コロナ禍において、感染予防対策のため、職員自身は県外への往来や帰省客との接触制限、利用者は面会、外出制限など、お互いにストレスのある期間が長引く中、職員は使命感を持ち、利用者に寄り添い、理念やユニット目標の実現に努力している。特に、前回の目標達成計画に記載した項目を、着実に実施している。利用者は加齢と共に年々介護度が高くなっているが、理念の「尊厳ある生活」の実現に向け、詳細な記録を基に検討を重ね、一人ひとりにあったケアを実践している。また、家族との関係を大切にし、毎月の「お便り」には担当者が温もりのある文章を自筆で記載し写真を添えて送っている。更に、「安心ある生活」の実現に向け、病院との連結などの利点をいかしつつ、拘束についても考慮しながら適切な対応策を皆で検討し、「安全な生活」の支援を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,37）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　　　　　　　　　（参考項目：37）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：35,36）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
		○	4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：29,30）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
51	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
			3．たまに
		○	4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
		○	3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
		○	2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様個々に合わせた介護ができる事主体とした理念となっている。月一回の話し合いの際に共有の確認をしている。	前回の目標達成計画を踏まえ、事業所理念である「安心と尊厳ある生活」に基づくユニッット目標を設定しながら、理念の実現に努めている。目に触れる場所に理念を掲示するとともに、申し送りの際にそれを唱和し、会議で確認している。最近は特に、「安全と衛生」を強く意識して「安心」の実践に繋げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事で感染予防の為地域の行事への参加は出来ていない。市報などで、地域の様子など知るように努めている	従前は、地域の祭りへの参加、事業所等の祭りへの招請・ボランティアや生徒の訪問など多くの交流があったが、コロナ禍の中では厳しく控えていた。最近は、少しずつ、託児所の幼児の作品持参の訪問などを受け入れ始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解し、日々の業務に活かしている。地域の方々へ向けては特に活かされていない		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催自体が行えない状況になっている。現在は、文書配布で、取り組み状況などの報告を行っている。開催時には、出た御意見は、充分に考慮し、サービスの向上に活かしている	従前は、市職員・町内会長・民生委員・家族代表と職員で開催し、運営状況・研修計画・時宜的な課題などを報告し、意見交換をしていたが、コロナ禍の中では、書面による報告中心で、意見交換を控えていた。感染症の中での会議の持ち方については、周りの情報をお聞きしながら検討している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催時は、参加して頂き状況報告等させていただいている。必要時には相談させて頂ける関係を築いている	従前のように緊密な意見交換はできていないが、今年度はコロナワクチン接種など具体的な事柄について連絡を取り合っている。。また、その他行政事務に関係する際は、情報交換や相談を行い、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	月一のグループホームの話し合いの際、年三回研修を行い、身体拘束についての理解を深めている。ユニット単位で入居者様個人についても検討する事も行っている。	年4回の身体拘束適正化委員会では、指針等に基づいて支援策の検討を行い、その内容は詳細に記録されている。また、これに併せて、禁止行為の内容や対応方法、具体的事例について、全職員で学んでおり、その記録も詳細である。突然外出したがる利用者の対応も見守り等の工夫を行っている。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修の際にも虐待について学ぶ機会があり、又、年一回外部の研修に参加し、虐待についての理解を深め、防止に努めている		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在研修は実施されていない。後見人制度を利用されている方がおられ、職員は対応しながら理解を深め支援している		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、充分説明を行っている。利用者様や御家族様に、不安や疑問な点があれば、その都度説明し、理解・納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	**○運営に関する利用者、家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の訪問時等に情報交換をさせて頂いていたがコロナ禍で機会が減っている為、年一回行っている無記名アンケートの御意見も反映させている。	利用者に関しては、従前以上に注意して利用者の日常会話・言葉を聴いている。家族に関しては、面会・行事を制限しているので、担当者が「毎月のたより」を詳しく書いて、写真添付で家族に送付し、安心感を持ってもらい、意見を聴くようにしている。アンケートも、例えば部屋の明るさ等々、出された意見を運営に反映させている。	
11		**○運営に関する職員意見の反映** 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と話し合う機会はあまりない為、管理者が職員の意見を聞き代表者へ提案し、検討・反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告で勤務状況等の把握を行っている。就業環境の整備についてもその都度報告し改善に努めている		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響もあり外部への研修参加が少なくなっている。今年度より、オンラインでの研修を取り入れ、参加するようになった。経験年数等を踏まえ、参加していく様進めている	毎年研修計画を作成し、内部研修・外部派遣研修・伝達研修で職員のスキルアップを図っている。今年は、内部研修は月例会議に併せた会議研修、外部研修はオンライン研修を受講している。今年度は職員の力量と研修意欲を勘案し認知症管理者研修を受講することができた。	
14	（8）	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加して交流に努めている。今年度は、オンラインにて参加し、サービスの質の向上に努めている	県グループホーム連絡協議会に加盟しのオンライン研修、情報交換や人的なネットワークづくりを促している。そして、その成果を、サービスの向上に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査にて、本人の不安や要望を確認し、又、入居後も困り事や不安など傾聴し、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約の時に要望や不安な事をお聞きし、利用者を安心して任せられる関係つくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態に合った支援を見極め御家族、担当Dr、Nsと相談して、他のサービスなども含め対応している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ自立した生活をして頂けるよう、見守りを行い、出来る事は職員と一緒にしていただきながら、暮らしを共にする関係づくりを築いている。		
19		**○本人を共に支え合う家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意向を理解し、出来るだけ沿えるように対応する一方で、通院介助や、物品補充などを依頼し共に支えていく関係を築いている		
20		**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は難しい部分もあるが、面会については、制限しながら行っている		
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士コミュニケーションが取れる様な環境作りに努めている。必要時は、職員も中に入り楽しみを共有出来る様に支援している		
22		**○関係を断ち切らない取組み** サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や自宅に戻られる場合は、必要に応じ協力や相談などへの支援を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に御本人や御家族の希望や意向を確認し、沿った支援に努める。把握が困難な方は、出来るだけ、本人の意向に沿うように努めている	「その人らしさ」を実現するため、利用者の思いや意向把握を特に大切にしている。一覧性のある「チェックシート」を基盤に、気付いたことを申し送りノートに整理し、これらで職員の意識の共有化を図っている。ケース記録は詳細である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や過去のサービス関係者から情報収集を行う他、本人からの聞き取りで把握に努めている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護日誌の記録の他に職員間の申し送り、三か月に一回のカンファレンスで現状の把握を行っている。		
26	（10）	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の意向を反映し職員全員の意向を集約して、現状に適した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、変化がなければ1年に1回介護計画の見直しを実施している。アセスメントにおいては、詳しく記載された記録を基に、できることを長くできるようにすることを中心に、利用者や家族の意向を確認し、職員の意見を出し合いながら、話し合っている。前回の目標達成計画を踏まえ、介護計画書にカンファアレンス記録を添えて家族に説明し配布している。	
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同じような記録にならない様に利用者の行動を注意深く観察し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		**○地域資源との協働** 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアなどで音楽を聞いたり、地域のお祭りなどに参加させて頂いてましたが、コロナの為お休みしている。		
29	（11）	**○かかりつけ医の受診支援** 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様と連絡を取りながら御本人の情報を作成し、かかりつけ医の受診の際に持参している。又御家族が付き添い出来ない時には、職員が付き添い行い説明を行っている。	「須田医院」の診療科以外については、家族又は職員の付き添いで、希望するかかりつけ医の受診を継続している。受診時は「生活状況情報」を持参している。受診後は、電話で報告し合い、申し送りや医療関係記録に記載し、医療機関、家族、事業所で情報を共有している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、体調管理を行っている。異常時又は利用者様の訴え時など看護師に相談したり併設医院に受診を行っている。かかりつけ医院がある方はそちらへ受診している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーに情報を記入し必ずお渡ししている。退院時には入院先からサマリーを頂き、退院前には必ず状態をみたり実態調査を行っている。併設の病棟へは洗濯物を取りに行ったりした際情報を聞いている。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に健康状態が重度化した場合や急変時の対応をどうしてほしいのか、御家族や御本人の意思を記入して頂いている。延命はどうするのかなど具体的に記入して頂き、希望に沿って支援している。	重度化等への対応については、入居時に、事業所としての対応策を詳しく説明している。病態に変化があった場合には、医師・家族・事業所で早期に話し合い、入院等の方針を繰り返し検討し、情報共有しながら適切に対応している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で実施している心肺蘇生法、AEDの使用方法などの 研修へ参加し実践力を身に付けている。急変時に備えマニュアルも作成し、活用している		
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の協力を得て、年2回避難訓練を実施していたが、コロナ禍の為実法人全体での訓練はできていない。併設医院と福祉施設の職員との協力体制は出来ている	従前は年に2回、1回は消防署の協力を得て、火災・地震等の避難訓練を実施していたが、コロナ禍の中では十分できていない。ハザードマップを確認し、昨年1回、事業所内で水害を想定して上階への避難訓練を行った。今年は状況を見ながら検討することとしている。同一敷地内の医院や福祉施設との連絡・連携については、仕組みができている。備蓄もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	**○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保** 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いの中で確認を行いながら、プライバシーを損ねない対応を行っている。	理念の「安心と尊厳」を大切にして、折々の会議等で確認しながら努力している。管理者は特に、言葉遣いや排泄支援時の対応についての振り返り行い、適宜対応している。	
36		**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方に関しては意見や希望を聞き入れながら支援を行っている。困難な方でも表情などで見極め、出来るだけ希望に沿うように努めている		
37		**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定出来る方に関しては自由に居室で過ごして頂いたり、フロアでテレビを観たりと自由に過ごして頂いている。		
38		**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に鏡などを置き又は洗面所にて鏡を見たり、自由におしゃれを楽しんで頂いている。気温や季節などにより、配慮が必要な時は、一緒に行う等支援している		
39	（15）	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った量や、携帯で提供を行い、好みにより、調味料を準備している。食事用エプロンをたたんで頂いたりしている	敷地全体の施設を対象に調理されたおかずの配食を受け、事業所内で、利用者一人ひとりに合わせた食事形態に調理している。誕生会や敬老の日にはケーキや子供たち手作りの作品を添えたり、みんなでホットケーキ作りをする等食べる楽しみの機会を創出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士の指導の下一人一人対応し、必要な人に対しては栄養補助食品なども取り入れている。水分量の確保についてはを10時、15時、3食の食事時間に加え、夜間も個人の希望に応じている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、入床前に一人一人の能力に応じて支援・介助し口腔内の清潔保持に努めている。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員間で共有して、個々に応じてトイレやポータブルトイレへの誘導を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを確認し合うとともに、利用者の表情や仕草から読み取り、適時声掛けと誘導によって、トイレで排泄できるように支援している。また、パットの調整や便座への移動でおむつを減らす工夫や排泄の自立支援に向け取り組んでいる。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分補給や乳酸菌飲料補給、運動などにより便秘の予防に心がけている。必要時は下剤の内服により予防に努めている		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日を希望に合わせる事は困難な為、入浴を楽しんで頂ける様希望のお湯の温度やコミュニケーションをとり、気持ちの良い入浴時間になる様支援している。	利用者の希望を踏まえて入浴を促し、週2回は入浴を支援している。入浴を好まない利用者に対しては、声掛けを工夫したりしている。利用者の身体状況に合わせて、複数支援など、安全・安心な入浴の提供ができている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が自由に休息を取って頂いている。冷暖房を使用し気持ちよく休んで頂けるよう支援している		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬には二重三重のチェックを行っている。薬の処方に変化があったときは、職員間で症状の変化に気を配り、必要時は主治医に報告し、指示を頂いている		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事動作や創作活動等、楽しみながら参加して頂き、気分転換出来る様支援している		
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ多くの方が外出出来る様に努めている。御家族の協力も得ながら、外出・外泊の支援も行っているが、現在は感染予防の為行っていない	従来は立地環境を生かして散歩や買い物、また、季節のドライブなどで折々に外出していたが、現在は、玄関前の散策や、菜園のズッキーニ栽培で日光を浴びる程度である。コロナ禍の終息を願っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に金庫を設け一人一人お金を預っており、いつでも使える様に支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話したり、手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日清掃・換気を行い、冷暖房を活用し快適に過ごせる様に支援している。日光やテレビの音など、その時々に対応している。季節の花を飾り、四季を感じて頂いている。	広い居間は、適切な温度・湿度管理がなされ、清掃も行われている。3階の窓からは市街地の風景が一望できる。壁には季節を感じさせる飾り付けがなされ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。換気にも留意されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に過ごして頂けるようになっており、テレビを観たり、会話を楽しんで頂いている		
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染予防の為リビングでテレビを観る際も、距離を取って頂いている。居室に写真やテレビなどある利用者様は自由に過ごして頂いている。	その人らしく過ごしていただくため、テレビやラジオ、衣装ケースなど馴染みの調度品や家族の写真等を持ち込んで貰い、安心して居心地よく過ごしてもらっている。温度湿度、清掃にも配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が解る様に表札を付けるなどし、自立した生活が送れるように工夫している家事動作や、レクリエーションなども出来る事を支援している		